

# 妙高市史編さん計画案報告書



令和6年3月

妙高市史編さん準備委員会

# 妙高市史編さん計画案報告書

## I 市史編さんの目的

### 1 市史編さんの意義

平成17年（2005）4月に旧新井市・旧妙高高原町・旧妙高村が合併して誕生した妙高市は、北は海浜部をもつ上越市や糸魚川市、南は山岳地帯が広がる長野県の市町村と接しており、古来、海と山をつなぐ交通の要衝として開かれ、周辺地域との交流の中で地域文化を育んできた。また妙高山を地域の名山として心の拠り所とし、妙高山等が生み出す自然の恵みを農業や観光等の産業に活かすことで、今日に至る発展の基礎を築いてきた。

妙高市のこうした歴史や文化は、私たちが自らの地域に対して抱く誇りや愛着の基層を成すものであり、地域のアイデンティティの形成につながる重要なものである。歴史を学ぶことは、過去の出来事を通して私たちが生きている現在を知ることであり、先人たちの知恵や苦勞、成功や失敗を教訓として、これから進むべき方向を見つけ出すことに他ならない。

妙高市が誕生して20年が経過しようとしている現在、地域の連帯感や結束力を維持し、充実した市民生活を実現するためには、共通する歴史や文化を私たち一人ひとりが理解し、その中から見えてくる課題や可能性を見極め、持続可能な将来の道筋を考えていくことが重要となっている。事前のアンケート調査においても、多くの市民から市史編さん事業に賛同する回答が得られており、新たな市史編さんに対する高い関心や期待がうかがえる状況にある。

妙高市の歴史や文化を理解することは、市の将来をより良い方向に進めることに資することから、過去を映し将来を照らす鏡になるものとして、『妙高市史』を新たに編さんする。

### 2 市史編さんの背景

新たに市史編さんを企画した直接的な背景としては、次の諸点が挙げられる。

- ・旧3市町村の自治体史刊行から古いもので半世紀が経過しており、刊行後の歴史を中心とした現代史の新たな部分について、関係者や関係資料が現存しているうちに記録としてまとめ、後世に残すことが喫緊の課題となっている。
- ・旧3市町村の自治体史刊行後に市の所蔵となった考古資料や古文書の調査、解読の進展によって、歴史の空白を埋める発見や従来 of 学説を覆す発見が相次ぎ、新たな歴史像を提示すべき時期が到来している。
- ・合併から20周年を迎えようとしている現在、旧3市町村それぞれのあゆみを一つにまとめ、妙高市の特長や妙高市らしさを捉え直すことが、将来を豊かなものとするために必要となっている。

### 3 市史編さんの目的

#### (1) 愛郷心やまちづくりへの参画意識の醸成

将来を担う世代に妙高市の歴史文化を正しく伝え、郷土に対する誇りや愛着を醸成するとともに、地域の持続可能な発展のための活動に主体的に参画する意識を高める。

#### (2) 各地域に伝わる史資料の継承

市内の各地域に伝わる史資料を可能な限り調査、収集するとともに、適切に保存、整理し、貴重な歴史遺産として次世代に継承する。

#### (3) 教育・文化の向上と地域の活性化

自然・歴史・文化・産業等の各視点から妙高市がもつ魅力や特性を引き出し、これからの教育・文化の向上や地域の活性化のために役立てる。

## II 基本方針

### 1 史資料の調査・保存・公開について

- (1) さまざまな種類の史資料（古写真、地域で発行した印刷物、行事の記録、方言、景観、地名等の身近なものを含む）を悉皆的に調査する。
- (2) 市内の全ての地域を対象に史資料の所在調査を実施し、地域の実情を把握するとともに、現在に至るまでの変化の過程を明らかにする。
- (3) 調査した史資料を効率よく保存、管理、公開していくための仕組みや体制を整える。
- (4) 注目度が高く、頻繁な利用が想定される史資料については、今後の活用の見込みを精査したうえで資料集を作成する。
- (5) 史資料の公開手法の一つとして、インターネットを積極的に活用する。

### 2 市史の内容について

- (1) わかりやすい用語や表現で記述し、写真や図表を多く用いる。
- (2) 学問としての専門性を保持しつつ、新たな調査成果に基づく新たな歴史の記述を目指す。
- (3) 歴史の流れや変化の画期を取り上げる通史に相当する部分を入れつつ、妙高市に特徴的な出来事や妙高市が誇る自然・文化・産業等に注目した特論に相当する部分を大きく取り上げた全体構成とする。
- (4) 全体構成の検討にあたっては、『妙高市歴史文化基本構想』（2018）において妙高市の地域特性として抽出された「交通の要衝（海と山を結ぶ）」、「妙高山」、「水と雪」等の視点や、それらに結び付く8つの関連文化財群（ストーリー）を有効に活用する。

### 3 市史の活用について

- (1) 通常の学術的な市史（以下「一般書」という。）とは別に、子どもたちが調べ学習や授業等で活用することができる普及書を編さんする。
- (2) 一般書及び普及書については書籍版とともに電子版を編さんする。
- (3) 電子版については書籍版を電子化したものに留まらず、市民がインターネット上で閲覧や書き込みができ、記事の編集に参加することができる形態での活用を検討する。

## Ⅲ 内容

### 1 刊行の形態・部数及び規格について

刊行形態は書籍版と電子版の両方とし、書籍版の刊行部数については、電子書籍の普及が急速に進んでいる現状を鑑み、時代の趨勢や無償配布（寄贈）の必要範囲を勘案して刊行する段階で改めて検討する。

書籍版については一般書・普及書ともに、アンケート等をもとに次の規格を想定する。

○B5判

○1巻あたり300頁前後

### 2 全体構成及び巻数について

一般書の全体構成の柱については下表の四つを想定し、それぞれの柱ごとに1巻にまとめることを基本とする。ただし1巻の頁数が300頁を大きく超える場合については、その中をさらに分割することを検討する。

刊行順については下表の巻次の順を一つの目安とし、準備が整ったものから刊行していくこととする。

巻次	構成の柱（テーマ）
第1巻	妙高山が育む暮らし
第2巻	信越の交流と暮らし
第3巻	水と雪に寄り添う暮らし
第4巻	暮らしの移り変わり（通史）

普及書については一般書の内容を取捨選択して1巻にまとめることを基本とする。その全体構成や柱の立て方等については、一般書の全体構成や具体的な記載内容が明確になった段階で新たに検討する。

## IV 刊行計画

### 1 編さん期間及び刊行年度

市史編さん事業の中心となる一般書の編さん期間については、準備期間を含めて令和5年（2023）度から令和14年（2032）度までの10か年とする。その間の年次計画については下表のとおりである。

普及書及び電子版の編さんについては、学校現場を取り巻く状況や社会のデジタル化の状況を見極めたうえで、令和15年度から新たな体制を整えて取り組むこととする。

### 2 事業費

市史編さんにかかる経費については、現段階で想定される条件をもとに概算事業費を下表のように算出する。

[25周年]

年度	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12	令和13	令和14
準備委員会	→									
編さん委員会		→	→	→	→	→	→	→	→	→
専門委員会 (編さん作業)			→	→	→	→	→	→	→	→
一般書の刊行							→	→	→	→
							第1巻	第2巻	第3巻	第4巻
資料収集・整理	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
概算事業費 (単位：千円)	5,300	6,000	13,000	13,000	13,000	13,000	19,000	19,000	19,000	19,000

### 3 編さん組織

市史を編さんする組織については次のとおりとする。

#### (1) 市史編さん委員会（10人以内）

市史編さん事業を推進するために、市史編さん計画の進捗管理や具体的な刊行形態等について協議、検討する。

#### (2) 市史専門委員会

市史編さん計画に基づき、専門的な立場から編さんに関する事項を総合的に企画、立案するとともに、史資料の調査、収集、整理、研究及び市史の執筆、編集等を行う。

市史専門委員会は編集委員、調査執筆委員、調査協力員で構成され、次の5つの分野を活動の枠組みとする。

- ①原始・古代    ②中世・近世    ③近代・現代    ④自然・民俗    ⑤文芸・文化財

ア 編集委員（12人程度）

各分野において史資料の調査、収集、整理、研究を主導し、市史の執筆及び全体の編集等を行う。

イ 調査執筆委員（必要人数）

編集委員が指定する事項を中心に史資料を調査、研究し、市史の執筆等を行う。

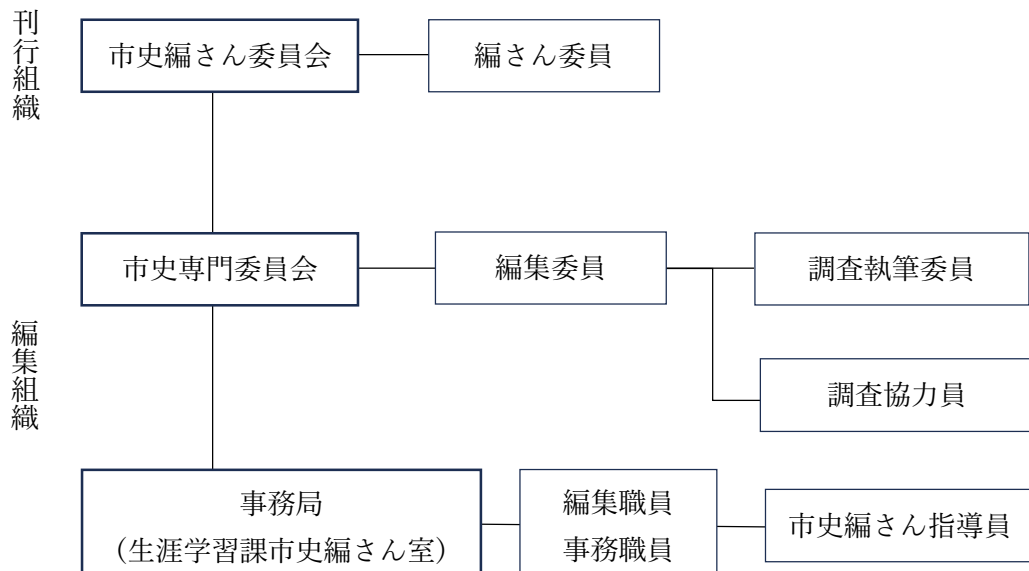
ウ 調査協力員（必要人数）

史資料の円滑な調査、研究等のために、現地調査の準備、調整、作業の補佐等を行う。

(3) 事務局

市史編さんの事務局は、教育委員会生涯学習課市史編さん室とする。

市史編さんの組織図



#### 参考資料

- 1 妙高市史編さん準備委員会設置要綱
- 2 妙高市史編さん準備委員会委員名簿
- 3 妙高市史編さん準備委員会の経過
- 4 『妙高市史』編さんに関するアンケート調査 結果報告書
- 5 『妙高市史』の全体構成案

## 妙高市史編さん準備委員会設置要綱

### (設置)

第1条 妙高市史編さんについて協議及び検討するため、妙高市史編さん準備委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (役割)

第2条 委員会は、市長の要請に応じ、妙高市史編さんに関する基本事項として、編さんの基本方針、市史の内容、編さん期間、刊行スケジュール、編さん組織等について協議及び検討する。

### (組織)

第3条 委員会は、委員若干名をもって組織する。

2 委員は、学識経験者のうちから、市長が委嘱する。

### (委員の任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から、妙高市史編さん計画案を市長に提出する日までとする。

### (委員長の職務)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を各1名置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を代表し、その会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、必要に応じて開催する。

3 委員長が必要と認めるときは、委員ではない者を会議に出席させて意見を述べさせることができる。

### (事務局)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会生涯学習課において処理する。

### (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。



附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和5年6月20日から施行する。

(失効)

- 2 この要綱は、妙高市史編さん計画案を市長に提出した日をもってその効力を失う。

妙高市史編さん準備委員会 委員名簿

氏名	専門	所属・経歴等
あさくらゆうこ 浅倉有子	歴史学	上越教育大学名誉教授 妙高市文化財調査審議会委員 (R4. 4. 1～)
こばやしけいち 小林啓一	社会科教育	元新潟県社会科教育研究会会長 元妙高市教育委員会教育長 (H27. 10. 1～H30. 9. 30)
さきもとしょうじ 笹本正治	歴史学	長野県立歴史館特別館長 元信州大学副学長
しむらたかし 志村 喬	地理学 現代史	上越教育大学副学長、教授
ほんだゆうじ 本田雄二	文書管理	新潟県立文書館認証アーキビスト 元高等学校長、元新潟県教育庁文化行政課長

任期：令和5年7月1日～令和6年3月31日

妙高市史編さん準備委員会の経過

令和5年7月1日付けで5名の委員を委嘱し、7月・10月・1月に準備委員会を開催した。各回の議題及び主な意見は下記のとおりである。

回	期 日	議 題	主な意見
第1回	令和5年 7月20日	<p>〔報告・説明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妙高市史編さん事業の概要について</li> <li>・旧3市町村史の刊行状況について</li> <li>・旧3市町村史編さん後の資料の収集・保管状況について</li> </ul> <p>〔協議・検討〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目指すべき妙高市史の姿について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの市史には映像化や電子化が必要である。</li> <li>・市史編さんで調査した史資料は市民の財産になるもの。長く残して公開できる体制を整えてほしい。</li> <li>・平凡な歴史ではなく、妙高の特長や妙高市民が誇れるものを編さんの柱にしたほうがよい。</li> <li>・地域振興に結び付く市史にしてほしい。</li> <li>・市史編さんは若手の職員や研究者を育成する機会でもある。</li> <li>・学生を含む市民からアンケートをとり、市民が求める市史の姿を把握するべきである。</li> </ul>
第2回	10月19日	<p>〔報告・説明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妙高市史に関するアンケート調査の実施について</li> </ul> <p>〔協議・検討〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『妙高市史』の全体の構成について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果は編さんを後押しする市民の声である。今後のPR等に有効活用してほしい。</li> <li>・編さん段階から公文書館等の開設についても議論していくべきである。</li> <li>・地誌編と歴史編の2巻は内容に重なる部分が多く、全体としてテーマ編となっている。</li> <li>・通史ではなく、テーマを重視した編さん手法は、意欲的・挑戦的な取組で面白い。</li> <li>・全編をテーマで区分し、それとは別に通史に当たる巻を作ってはどうか。</li> </ul>
第3回	1月16日	<p>〔報告・説明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妙高市史編さんに関するアンケート調査の結果について</li> </ul> <p>〔協議・検討〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妙高市史編さん計画案について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画案の冒頭に編さんの理念が書かれているが、行政の目線になっている。市民の目線も必要である。</li> <li>・2巻構成から4巻構成に変わり、たいへん収まりがよい。</li> <li>・前回の委員会の議論とアンケート結果をふまえた全体構成案になっており、非常にきれいにまとまっている。</li> <li>・市内の小中高校生からも関わってもらおう場面があるとよい。</li> <li>・普及書の編さんは、本編の完成後にそのときの学校現場の状況をふまえて再検討することが望ましい。</li> <li>・市史の電子版は、固定化されたものとは別に市民が記事の編集に参加できるようなものも検討してほしい。</li> </ul>

『妙高市史』編さんに関するアンケート調査

# 結果報告書

2023年12月

妙高市教育委員会生涯学習課

(市史編さん準備室)

## 1 調査の目的

平成17年4月に新井市、妙高高原町、妙高村の3市町村が合併して妙高市が誕生しました。令和7年に20周年を迎えるにあたり、旧3市町村のそれぞれの歩みを総括し、妙高市の歴史文化の特徴や妙高市らしさを追求することが市の将来を考えるうえで重要となります。それらのことから、妙高市の将来の方向性を映し出すひとつの鏡として『妙高市史』を編さんします。

新たな『妙高市史』は、子どもからお年寄りまで手に取って読んでみたい、活用してみたいと思っていただけるものを目指し、多くの方々からご意見をいただき、編さんの参考にしたことから、アンケート調査を実施しました。

## 2 調査方法

- ①妙高市ホームページにグーグルフォームを利用したWeb アンケートを掲載
  - ②『市報みょうこう』10月号に記事を掲載し、アンケート依頼
  - ③市内文化財関係団体・観光商工関係団体・各種教育関係委員・市内小中高校の教職員等にアンケート用紙を配布し依頼（用紙での回答、Webでの回答どちらも可）
  - ④妙高市公式LINE登録者にアンケート依頼の情報提供
- ※妙高市ホームページから誰でも回答できることから、市外県外からの回答もあり

## 3 調査期間

令和5年9月20日～11月20日

## 4 回収結果

総回答者数 344人

## 5 報告書の見方

- ・[n=〇〇]の〇〇の数字は、設問ごとの回答者数を表します。
- ・回答項目ごとの数字は回答数、その後ろのカッコ内は比率（％）を表します。比率は、小数点第2位を四捨五入していることから、合計が100％を上下する場合があります。
- ・回答者が複数回答できる質問でも比率は同様に算出しているため、回答合計が100％を超える場合があります。
- ・グラフ中の回答の語句については、一部簡略化している場合があります。

## 6 調査主体

妙高市教育委員会生涯学習課市史編さん準備室

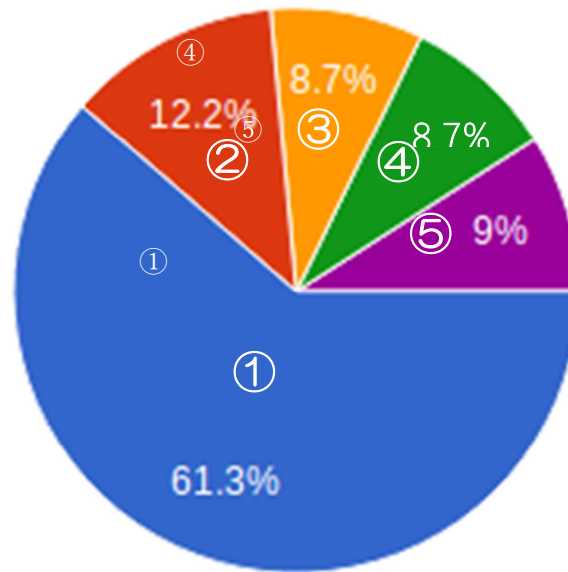
## 「妙高市史」編さんに関するアンケート結果

### 問1 居住地区について

あなたのお住いの地区または勤務地を教えてください。該当する地区名をチェックしてください。

① 新井地区	211(61.3%)
② 妙高高原地区	42(12.2%)
③ 妙高地区	30(8.7%)
④ 市外	30(8.7%)
⑤ 新潟県外	31(9.0%)

[n=344]



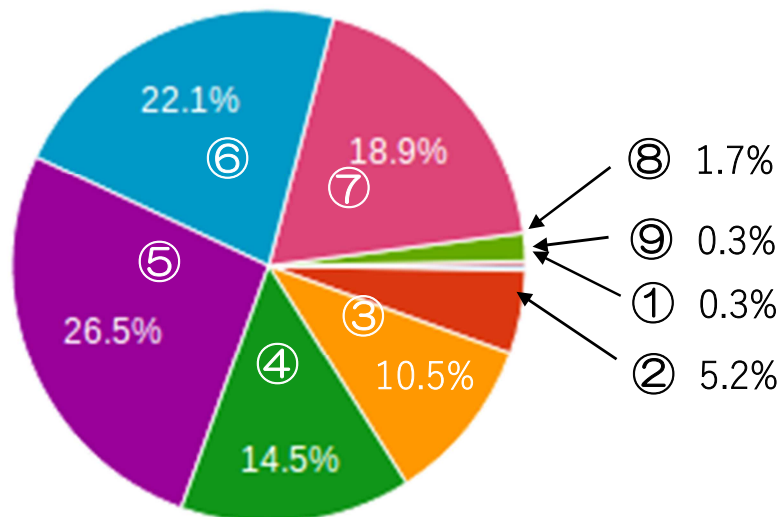
- ・総回答数 344 のうち旧 3 市町村の回答者は 283 で、その内訳は新井地区 211、妙高高原地区 42、妙高地区 30 となっている。その割合は新井地区 74.6%、妙高高原地区 14.8%、妙高地区 10.6%である。
  - ・令和 5 年 11 月 1 日現在の旧市町村の人口割合は、新井地区 75.7%、妙高高原地区 13.6%、妙高地区 10.7%である。
  - ・上記から、旧市町村別の回答者割合と、人口割合はほぼ一緒である。
- ※妙高市 LINE 公式アカウントに登録している人を対象にアンケートへの回答依頼を行ったほか、文化団体や市内の学校の先生を対象にアンケート用紙を配布するなど、アンケート依頼を積極展開したため、344 件の回答を得られたものと思われる。

## 問2 年齢について

あなたの年代を教えてください。該当する年代をチェックしてください。

① 10代	1(0.3%)
② 20代	18(5.2%)
③ 30代	36(10.5%)
④ 40代	50(14.5%)
⑤ 50代	91(26.5%)
⑥ 60代	76(22.1%)
⑦ 70代	65(18.9%)
⑧ 80代	6(1.7%)
⑨ 90代以上	1(0.3%)

[n=344]



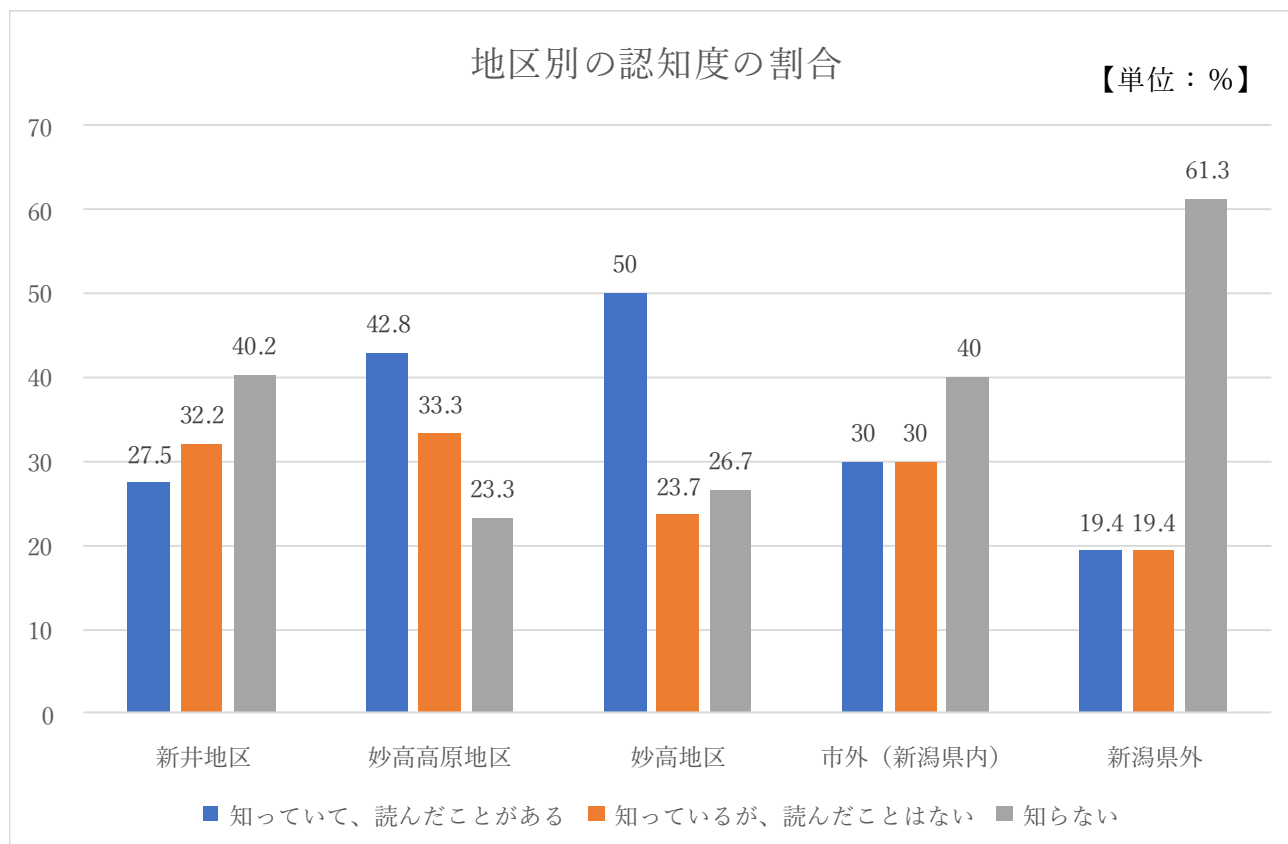
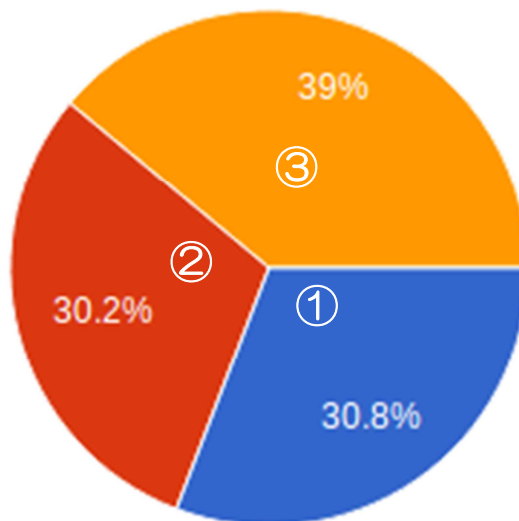
- ・回答割合は、50代 26.5%、60代 22.1%、70代 18.9%、40代 14.5%、30代 10.5%の順である。これらの年代層が10%を超えている。
  - ・ほぼ万遍なく様々な年代層からの意見を徴集することができた。
  - ・いっぽうで10代の回答が1人しかいなかった。市史編さん準備委員からは、「これからを担う10代の考えを聞くことが必要」との意見があったが、結果して10代からの回答は1人だけだった。
- ※回答率の高い年代は、『市史』そのものへの関心度が高いことや、所属する文化団体や先生方の年齢層に比例しているものと思われる。

### 問3 自治体史（『新井市史』『妙高高原町史』『妙高村史』）の認知度について

合併前旧3市町村の自治体史を知っていますか。該当するものをチェックしてください。

- ① 知っていて、読んだことがある 106 (30.8%)
- ② 知っているが、読んだことはない 104 (30.2%)
- ③ 知らない 134 (39%)

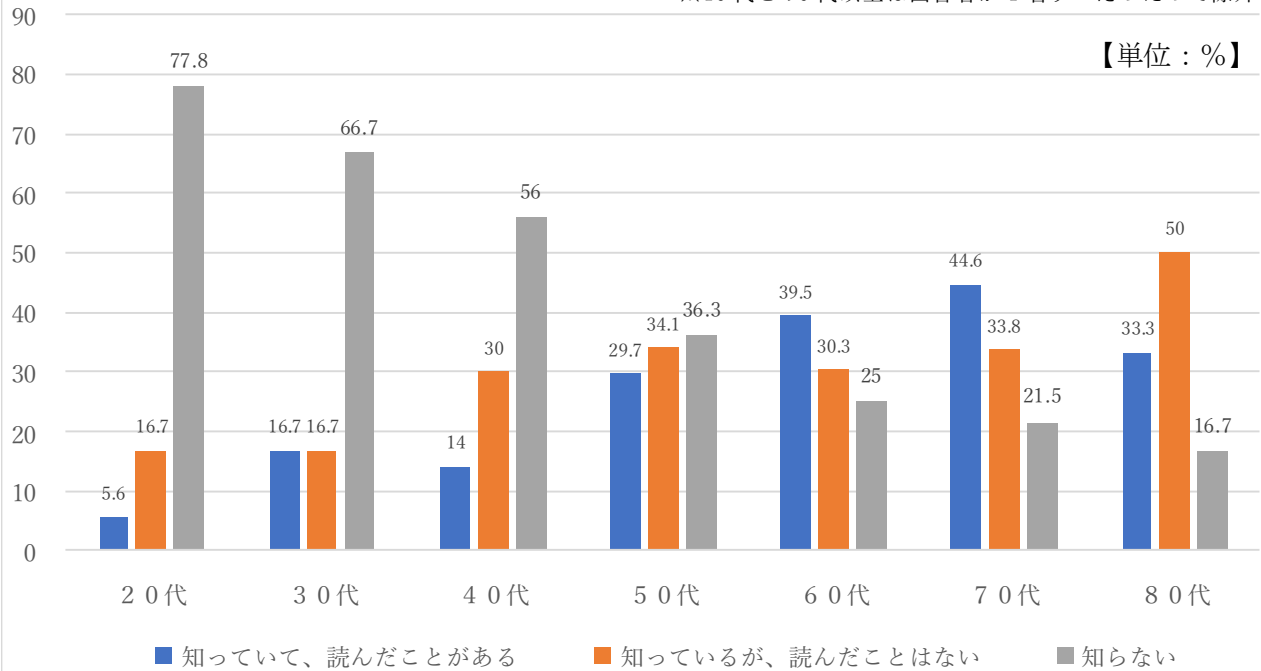
[n=344]





## 年代別の認知度の割合

※10代と90代以上は回答者が1名ずつだったので除外



- ・全体の認知度では③「知らない」が4割弱である。①「知っていて、読んだことがある」、②「知っているが、読んだことはない」のいずれも約3割である。
  - ・地区別の認知度では、新井地区が①が27.5%、②が32.2%、③が40.2%と、「知らない」の割合が高い。妙高高原地区が①が42.8%、②が33.3%、③が23.3%と、「知っていて、読んだことがある」の割合が大幅に高い。妙高地区では、①が50%、②が23.7%、③が26.7%と、「知っていて、読んだことがある」が5割と大幅に高い。
  - ・刊行から新井市史が約50年、妙高高原町史が約40年、妙高村史が約30年経過しており、経過年数に比例して認知度が低くなっている。
  - ・年代別では、③が10代から50代にかけて高く、①は60代と70代が一番高い。②は80代が一番高い。
- ※旧3市町村史の中には、古いものでは半世紀、新しいものでも30年が経過していることもあり、40代以下の年代層の認知度が、他の年代に比較して大幅に低くなっているものと思われる。

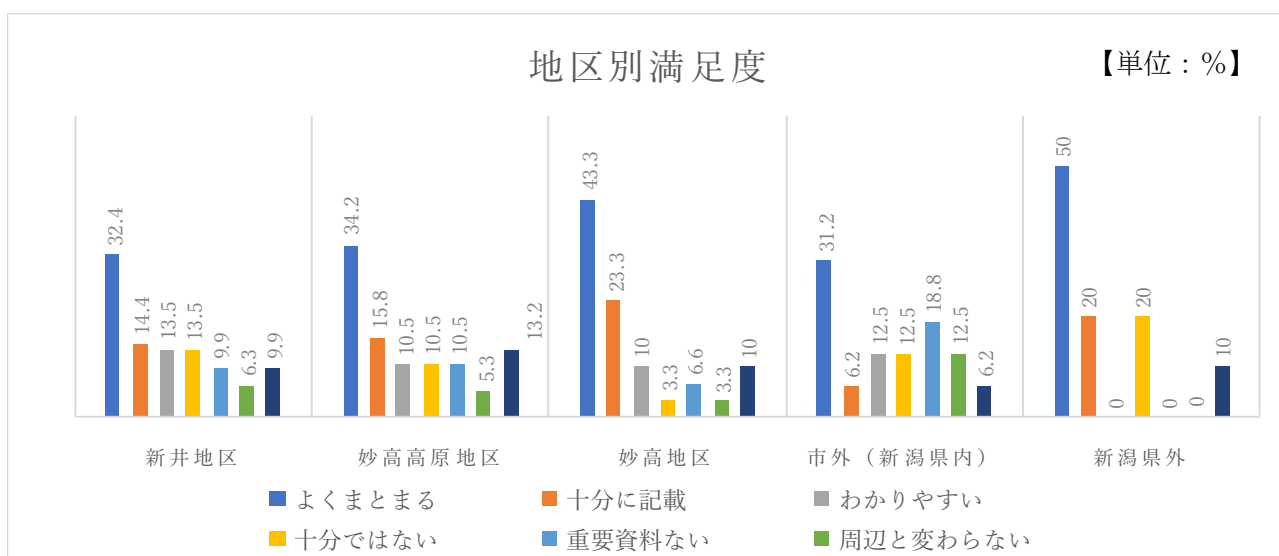
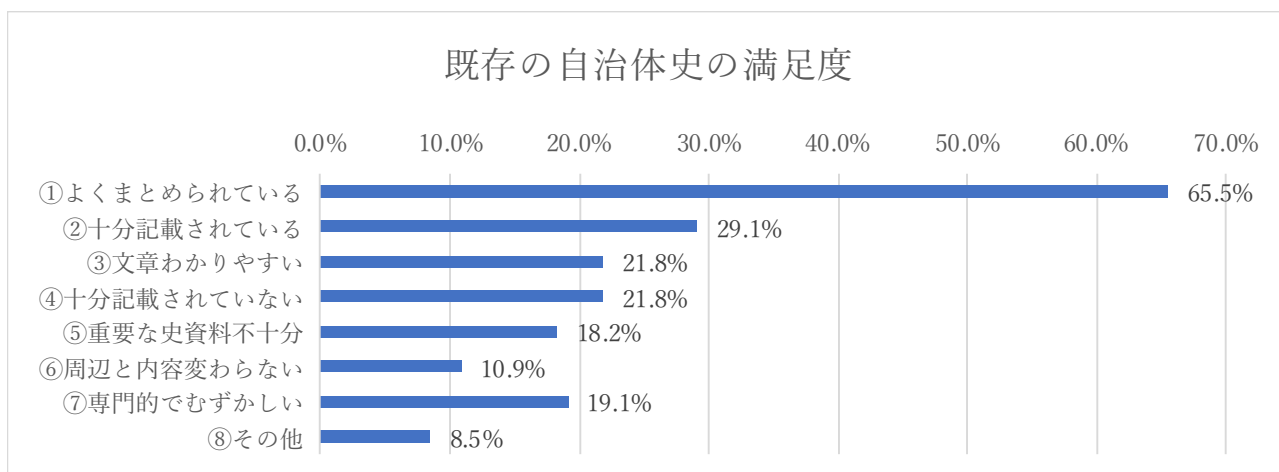
## 問4 既存の自治体史の満足度について

問3で「知っていて、読んだことがある」と回答したかたにお尋ねします。旧3市町村の自治体史を読んだ感想として、該当するものをチェックしてください（複数回答可）。

※本来問3で①に回答した106人が対象だが、110人が回答したことから、母数は110となっている

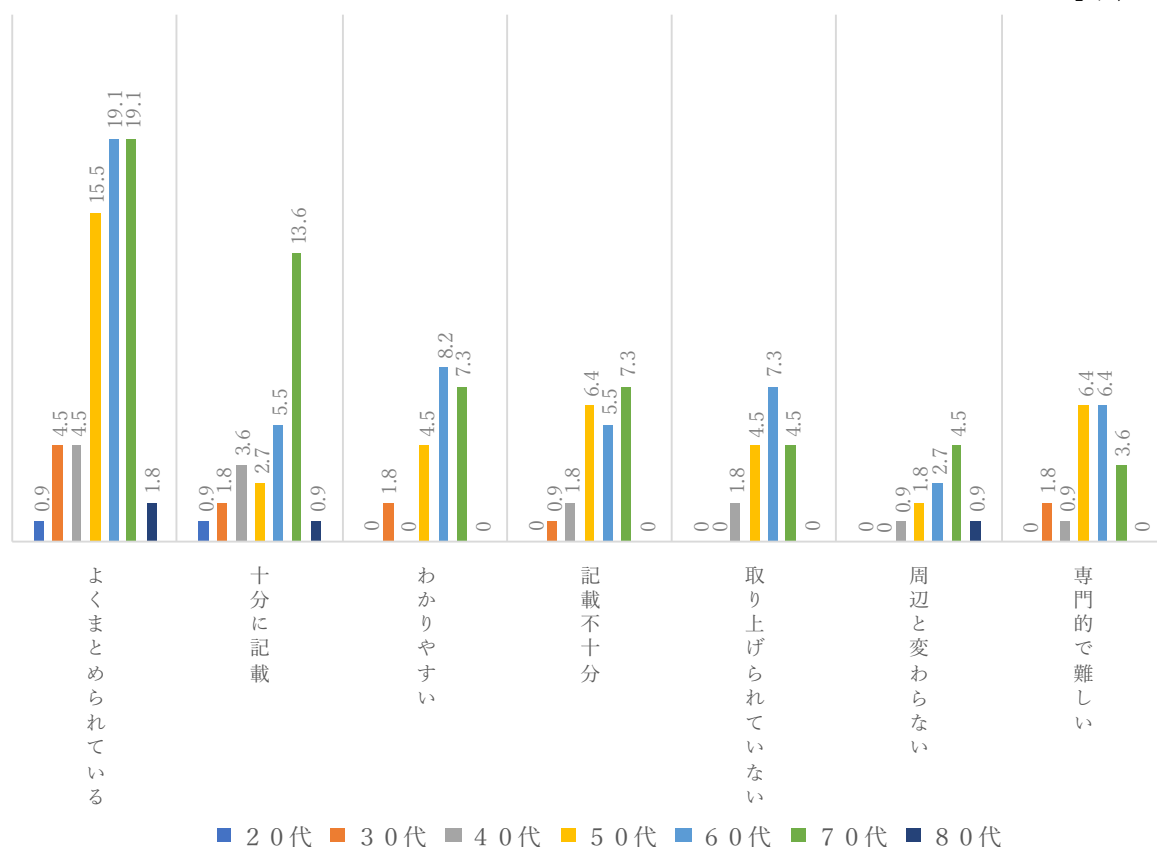
- ① 地区の歴史がよくまとめられている 72(65.5%)
- ② 知りたいことが十分に記載されている 32(29.1%)
- ③ 平易な文章でわかりやすい 24(21.8%)
- ④ 知りたいこと、調べたいことが十分に記載されていない 24(21.8%)
- ⑤ 重要な史資料が十分に取り上げられていない 20(18.2%)
- ⑥ 周辺の自治体史と書いていることが変わらない 12(10.9%)
- ⑦ 内容が専門的で難しい 21(19.1%)
- ⑧ その他 9(8.5%)

[n=110]



## 年代別満足度

【単位：％】



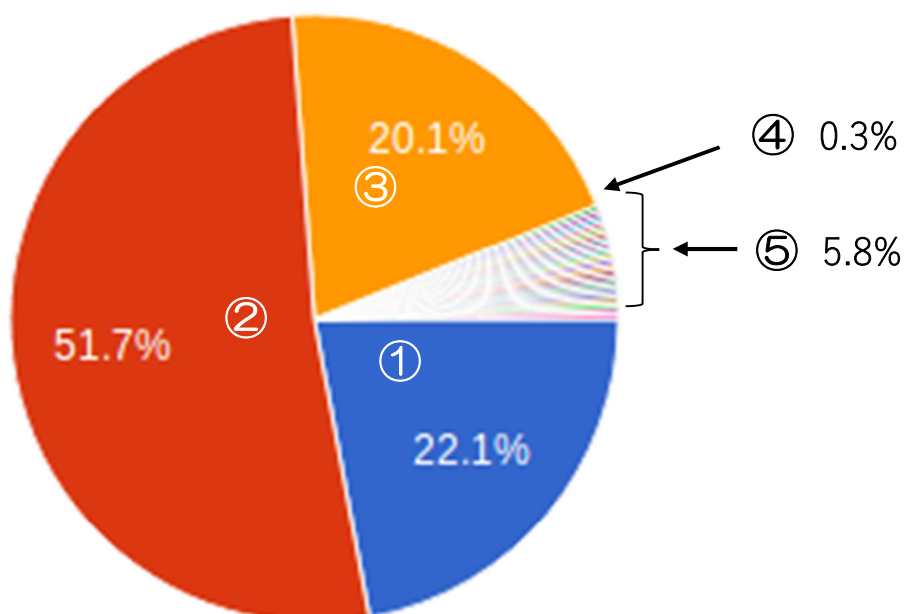
- ・全体では「地区の歴史がよくまとめられている」が65.5%と圧倒的に高く、次いで「知りたいことが十分に記載されている」が29.1%、「平易な文章でわかりやすい」が21.8%の順となっており、肯定的な回答が多い。
  - ・「十分に記載されていない」、「十分に取り上げられていない」や「難しい」などの否定的な回答は肯定的な回答よりも少ない。
  - ・地区別の満足度を見ると、県外が50%、妙高地区の満足度が43.3%と高い。いっぽう、新井地区、妙高高原地区、市外は30%代と、前記と比較すると低い数値となっている。
  - ・年代別では、60・70代の満足度が高い。特に「知りたいことが十分に記載されている」と回答した70代の割合が高い。
- ※満足度は、妙高地区、妙高高原地区、新井地区の順となっていて、刊行時期が新しいほど高いことがわかる。年代別では、70代、60代、50代の順で満足度が高い傾向にある。

## 問5 『妙高市史』の仕上がりについて

これから編さんする『妙高市史』の仕上がりについて、皆さんが期待するものをチェックしてください。

- |                                |             |
|--------------------------------|-------------|
| ① 古文書や考古資料等の史資料を多く紹介した専門性が高いもの | 76 (22.1%)  |
| ② 史資料よりも写真や図表等を多く掲載したビジュアル的なもの | 178 (51.7%) |
| ③ 人物や情景のイラストなどを多く掲載した物語風のもの    | 69 (20.1%)  |
| ④ ビジュアル的なものと物語風なものを組み合わせたもの    | 1 (0.3%)    |
| ⑤ その他                          | 20 (5.8%)   |

[n=344]



- ・「史資料よりも写真や図表等を多く掲載したビジュアル的なもの」への期待が半数以上を占めている。
- ・「専門性が高いもの」や「物語風のもの」への期待は20%程度と、前記と比較すると低い割合である。
- ・その他の自由意見の中には、「子どもにとっても読みやすいもの」、「子ども用のものと専門的なものを別々に」、「別途、普及版も」など、いわゆる「普及版」への要望も一定数見られる。

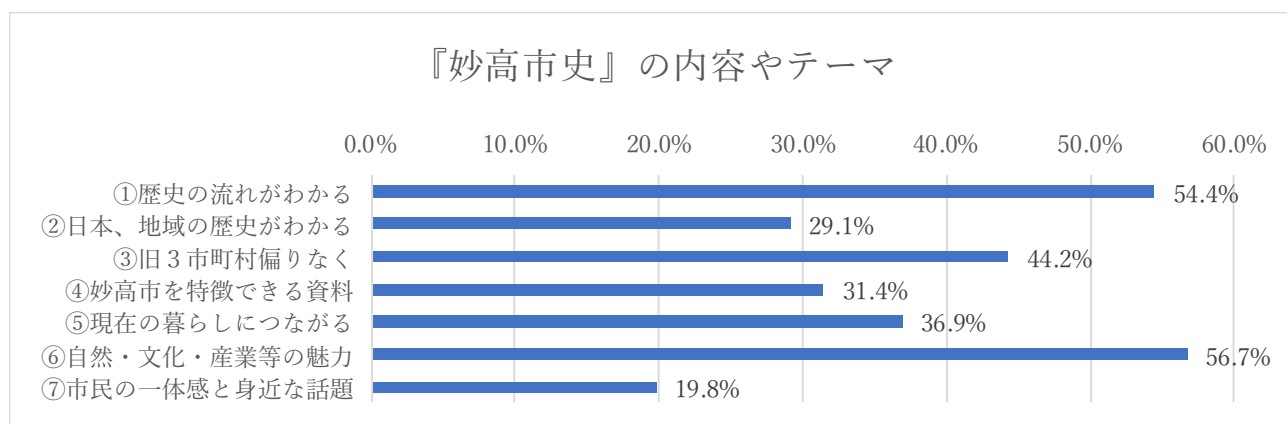
※専門性を維持しつつ、視覚に訴えた見やすいものを希望していることがわかる。

## 問6 『妙高市史』の内容やテーマについて（1）

『妙高市史』の内容やテーマの設定にあたり、特に重要と考えるものをチェックしてください（3つまで）。

- ① 時代概説が充実しており、歴史の流れや変化がよくわかること 187 (54.4%)
- ② 妙高市の歴史と周辺地域や日本列島の歴史が十分に対比できること 100 (29.1%)
- ③ 旧3市町村の歴史が偏りなく扱われていること 152 (44.2%)
- ④ 全国から注目される妙高市を特徴づける出来事や資料が大きく取り上げられていること  
108 (31.4%)
- ⑤ 産業や生活文化等の現在の暮らしにつながる歴史や背景がまとめられていること  
127 (36.9%)
- ⑥ 妙高市の地域特性や、妙高市が誇る自然・文化・産業等の魅力が顕在化していること  
195 (56.7%)
- ⑦ 市民の一体感や愛郷心の醸成につながる身近な話題が盛り込まれていること  
68 (19.8%)

[n=344]



・「妙高市の地域特性や、妙高市が誇る自然・文化・産業等の魅力が顕在化していること」と「時代概説が充実しており、歴史の流れや変化がよくわかること」が50%を超え、ついで「旧3市町村の歴史が偏りなく扱われていること」が40%を超えている。

・そのほかの項目についても、「市民の一体感や愛郷心の醸成」以外は、30%前後と高い割合となっている。

※妙高市の地域特性や歴史の流れがわかるとともに、旧3市町村で偏りが少ないよう希望していることがわかる。

## 問7 『妙高市史』の内容やテーマについて(2)

『妙高市史』で大きく取り上げてほしい出来事、人物、テーマ等がありましたら、自由に記述してください。

### 【自然関係・災害関係】

- ・自然保護活動や動植物の研究
- ・自然環境をもとにした、妙高市ならではの取り組み
- ・高田平野はどの様にしてできたか、信濃川・関川・関田山脈との関わり
- ・地形や土地の成り立ちと、歴史的背景が結びつくようなもの
- ・「沼の集落」の歴史、「千草石」発見から市販等の歴史、「古笹ヶ峰湖」の歴史
- ・最古の旧地図から現在の地図までの市町村の変化
- ・活断層
- ・妙高山の噴火経歴等、妙高市の名前の由来である妙高山と、そのときどきの人々との関り
- ・災害（火山噴火、水害や雪害など）記録、復興事記

### 【原始～近世の歴史】

- ・斐太歴史の里、斐太遺跡及びその保存の歴史
- ・栗原遺跡や国分寺
- ・古くから上越地方が越後の中心地域であったこと
- ・斐太神社や市内各村の神社
- ・戦国時代の人物、二俣城や田切城、鮫ヶ尾城、鳥坂城をはじめとする妙高市の城郭
- ・北国街道と宿場町について
- ・最近発見された歴史遺産や文化財など
- ・上杉謙信時代の妙高市エリアの統治と庶民の生活
- ・関山家と宝蔵院、宝蔵院院主、信仰圏、北信との関係、異安心一件
- ・妙高山信仰と関山神社の歴史、火祭りの歴史について
- ・戊辰戦争、明治維新、日清から大東亜にかかる戦争期
- ・有形、無形の重要文化財のマップ、歴史的な文化財の詳細
- ・史跡や筆塚、一里塚
- ・寺社の歴史、中世の時代背景

### 【水資源や用水、道路や鉄道などインフラ関係】

- ・温泉やその開発の歴史
- ・陸運（街道）と水運（河川）の歴史
- ・道路・鉄道・用水などのインフラ整備、インフラの近代化や歩みについて
- ・旧関山駅のスイッチバック

- ・拾ヶ村用水と中江用水。四ヶ村用水。電源開発と用水、地域住民の関わり
- ・水力発電開発の歴史
- ・川上隧道（上江用水）の開削
- ・世界かんがい施設遺産「上江用水」。関川またぐ鉄線つりばし。関川水系の水力発電所。水上里養水資料館
- ・関川水系の農業用水の利水
- ・河川工事
- ・市街地開発の歴史と再開発の歴史

#### 【雪関係】

- ・雪と降雪量、観光、スキー、食べ物、生活の工夫等
- ・ジャンプ台
- ・雪国の暮らしや豪雪時の状況など
- ・雪国特有の住居の変遷について。雪との関わりについて。
- ・スキー板生産業、大毛無山の開発とそれに伴う雪との戦い

#### 【民俗関係】

- ・妙高市の人々の暮らしや方言、庶民の生活や文化、昔と今の生活の違い
- ・各集落の起源や歴史、変化、興亡、魅力など
- ・時代ごとによく食べられていた食事や給食のメニュー（献立表など）の再現
- ・各地で伝承されてきた祭や伝統的な行事
- ・昔の話し言葉（方言）や踊りなどの無形文化財について映像化や音源化
- ・旧村単位の村歌
- ・平丸地区のすげ細工など、集落の特徴的な工芸

#### 【産業・観光関係】

- ・戦後からの発展（産業、都市計画）の様子
- ・企業の衰勢
- ・地域の産業
- ・ブドウの歴史
- ・大洞原の変遷
- ・観光スポット、ウィンタースポーツ、妙高市のイベント等、全国にアピールできる場所など

#### 【人物】

- ・歴代市長とその実績
- ・妙高市出身の有名人（オリンピック選手、芸能人など）や成功者（博学者・文化人など）
- ・妙高市ゆかりの文化人（岡倉天心、小林一茶など）

### 【市町村合併、学校統廃合】

- ・合併に至る理由、プロセス、合併による行政区の変化、市の名称
- ・小中学校や保育園等の歴史と統廃合

### 【その他】

- ・人口の変遷
- ・妙高市と国立公園の歩み
- ・3市町村の偏りなく、満遍ない編集
- ・ビフォーコロナ
- ・行政の失策
- ・フィクションではなく、妙高市にまつわる学術的価値の高い市史
- ・公共施設の建設の歴史
- ・文人や皇族に選ばれた妙高

- ・124人の方からたくさんのご意見をいただいた（現存する個人を特定できるものについては割愛）。
  - ・いただいたご意見を9項目のテーマに分類し、整理した。
- ※貴重なご意見を意識しながら今後資料収集、聞き取りなどの基礎調査を行うとともに、市史編さんに活かすよう配慮する必要がある。

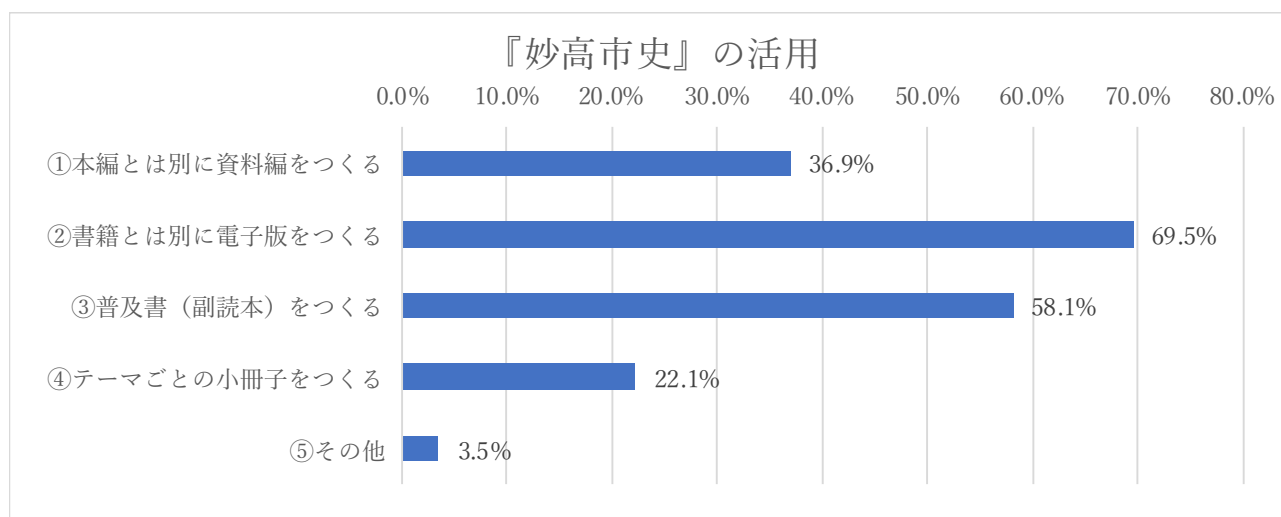


## 問8 『妙高市史』の活用について

『妙高市史』が様々な立場の人々から広く活用されるために、どのような工夫が必要だとお考えですか。必要と思うものをチェックしてください（複数回答可）。

- ① これからの歴史研究の発展に活かせるように、本編とは別に資料編（原典となる史資料を詳しく紹介したもの）をつくるのがよい 127 (36.9%)
- ② 書籍とは別に、インターネット環境で気軽に検索・閲覧できるように電子版も合わせてつくるのがよい 239 (69.5%)
- ③ 小中学生が調べ学習の参考図書として授業などで活用できるように、一般向けの市史とは別に、子どもたちを対象とした普及書（副読本）をつくるのがよい 200 (58.1%)
- ④ 時代やテーマごとに数十ページの薄い小冊子を読み切りの形で発刊していくのがよい 76 (22.1%)
- ⑤ その他 12 (3.5%)

[n=344]



- ・「書籍とは別に、インターネット環境で気軽に検索・閲覧できるように電子版も合わせてつくるのがよい」が70%弱と非常に高い割合である。
- ・次いで「小中学生が調べ学習の参考図書として授業などで活用できるように、一般向けの市史とは別に、子どもたちを対象とした普及書（副読本）をつくるのがよい」が60%弱となっている。

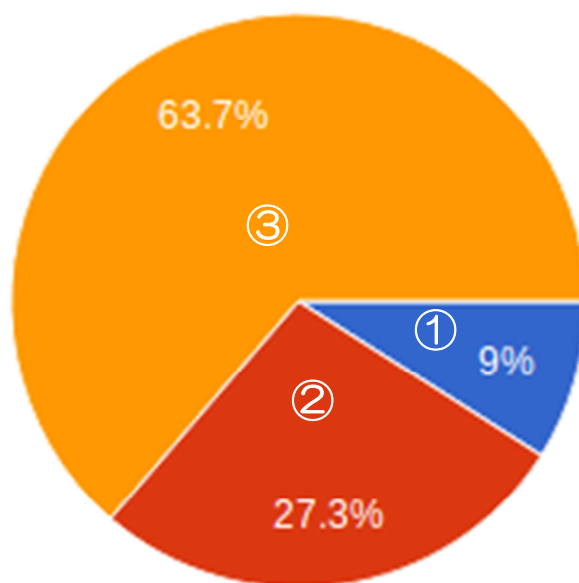
※収集した資料の扱いについては「資料編」として刊行する計画はなかったが、4割弱の希望もあることから、何かしらの形で提供できる取り組みが必要である。

## 問9 集めた史資料の活用について

市史の記述の原典となった史資料について、今後どのような方法で活用されていくことが望ましいと考えますか。望ましいと思うものをチェックしてください。

- ① 研究者や学生などが検索・閲覧できる窓口機能が整っていれば十分である 31 (9%)
- ② 公文書館などの収蔵施設があり、市民が気軽に閲覧できるようになっているのがよい 94 (27.3%)
- ③ 利用度の高い資料のデータ化が行われ、インターネット環境で誰でも閲覧できるようになっているのがよい 219 (63.7%)

[n=344]



- ・「利用度の高い資料のデータ化が行われ、インターネット環境で誰でも閲覧できるようになっているのがよい」が63.7%と突出して高い。
- ・「公文書館などの収蔵施設があり、市民が気軽に閲覧できるようになっているのがよい」が30%弱ではあるが、収蔵や閲覧など将来の活用への要望も一定数ある。
- ・「窓口機能だけあれば十分」は低くなっている。

※必ずしも印刷物に頼らずデータ化されていれば利用価値が高まり、気軽に閲覧が可能になる。市史編さんの最終年度が令和14年度であり、現在よりもさらに電子化が進んでいることが容易に想定できることから、それを見越した取り組みが必要である。

## 問 10 史資料の所在情報について

市史の編さんに利用可能な史資料（古文書、古写真、古い観光パンフレット類など）をお持ちのかたで、情報提供をいただけるかたは、その内容やご連絡先を教えてください

（割愛）

## 問 11 自由意見

『妙高市史』について、希望や要望があるかたは、どのようなことでも結構ですので、自由に記載してください。

（82名回答、類似の回答はまとめた。また、直接市史とかかわりない内容は割愛した）

### 【資料収集】

- ・市史作成経過について市民に伝え、新たな史資料の発掘、発見に努めてもらいたい。
- ・古文書・資料の寄託保管を進める。どんどん紛失・消滅・破損が生じている。
- ・失われた古文書・資料、残っている古文書・資料の確認を急ぐ必要がある。
- ・古文書の解説を進め、合せて次の100年に残すための修復が必要である。
- ・山間部にも古い歴史があるので、漏れ落ちのないようにしっかり調査して載せてほしい。
- ・過去の町史、村史、市史の合体でなく、新たな調査、研究成果を盛り込んでレベルアップを。
- ・古文書のみではなく、様々な資料に目配りをし、少しでも将来に役立つ記録を残すべき。
- ・専門家を交えての市民との語らいの場を設け、聞き取りや資料集めをしてほしい。

### 【体裁】

- ・カラーで写真が多く、堅苦しい文体ではなく、子どもからお年寄りまで興味を持って手にとって読めるようなもの。
- ・使用する文字のポイントは大きめに。
- ・分厚いものは気軽に手に取って読めないなので、シリーズもので集めたくなる冊子タイプ。
- ・雑誌感覚で買えるもの。銀行や病院などに置いて、誰でも気軽に手に取って読めるもの。

### 【内容】

- ・郷土を知ることができ、次世代へつなぐための貴重な文献であるので、大事に制作してほしい。
- ・知らないことが沢山あるので、身近なことを知りたい。
- ・移住者でも興味が湧く内容にしてほしい。ただ単に妙高市の昔を羅列したり懐かしんだりするだけでなく、他の地域との関わりや違いも絡めて記載してほしい。

- ・絵図面・写真・資料をできる限り多く載せることと、資料集を充実する。
- ・資料はパソコンで検索できるようにし、その内容をパソコンで見られるようにする。
- ・読みやすさ、わかりやすさばかりを考慮して、物語性やフィクションを盛り込むなどして、学術的価値を失うことだけはやめてほしい。
- ・行政機関が作成する公の刊行物として、妙高市を研究しようとする人文・社会科学研究者のための研究資料として、利用に耐える価値のあるものを目指してほしい。
- ・深く理解出来るよう、出典元や関連事項が解る資料編や関連項目の手引きが欲しい。
- ・研究の進んでいる分野だけが掲載され、市町村にとって必要な内容の掲載が不十分な市町村史が多いように思う。妙高市の特徴や課題の検討を市史に反映させてほしい。
- ・良かったことだけでなく悪かったことも記載するなど、多面的な内容を希望する。
- ・堅苦しい研究書から身近な図書となれば画期的なこと。後世につなぐ資料的側面も重要なので、両方を満足させてほしい。
- ・妙高市を離れた人たちが故郷を懐かしく思える内容。
- ・子どもたちの調べ学習に役立ち、そして、大人になって妙高市に残ろう、地元に貢献したいと思えるようなきっかけになる市史に。
- ・昭和 29 年の市制前の村落史を年表方式でもいいので記載してほしい。

#### 【施設・職員】

- ・計画中的の新図書館を有効に活用してほしい。
- ・専門職員の適切な配置と、「歴史博物館」の創設を望む。
- ・新井市史編さんの時に集められた古文書や資料のうち、返却されたものの中に散逸したものがあると聞く。所有権者の了解を得て、公文書館などの施設に収納されるが望ましい。

#### 【活用策】

- ・子どもたちにもストーリー性のある解りやすいものとし、学校の授業でも取り入れてほしい。
- ・後世に記録として残し、市民に郷土の歴史や文化等を知ってもらい活用してもらおう。
- ・長期にわたる編さん作業になると思うので、仮称「市史編纂だより」や講演会などの企画を計画的に実施し、市民の関心を高めてほしい。
- ・編さんの過程を広報で紹介してほしい。
- ・市史の編さんを絶好の機会と捉え、様々な場所で妙高市を PR してほしい。

#### 【その他】

- ・予約制とし、希望者が確実に購入できるようにしてほしい。
- ・生活圏が一緒の中郷や板倉を他市だからと言って排除しないでほしい。

『妙高市史』の全体構成（案）

(第1巻) 妙高山が育む暮らし	
・妙高山の成り立ち（自然）	・妙高山の信仰史（古代～）
・妙高山信仰の護持と資源管理（近世）	・頻発する山争い（近世）
・妙高山麓の温泉開発（近世・近代～）	・妙高山の観光開発と文化人の来訪（近代）
・笹ヶ峰高原の開拓（近代～）	・スキー観光の隆盛（近代～）
・国立公園の誕生（現代）	・妙高山観光の現在（現代）
・残したい豊かな自然（自然）	・愛される妙高山（現代）
妙高市歴史文化基本構想	関連文化財群①・⑦

(第2巻) 信越の交流と暮らし	
・人の往来と文化の形成（古代～）	・善光寺信仰と妙高（中世～）
・上杉謙信と川中島合戦（中世）	・北国街道と飯山街道（近世）
・国境をめぐる村の動き（近世）	・直江津線（信越本線）の開通（近代）
・信越を結ぶ交通路の発達（近・現代）	・県境をまたいで広がる生活文化（民俗）
妙高市歴史文化基本構想	関連文化財群②・④

(第3巻) 水と雪に寄り添う暮らし	
・豊かな水のある風景（自然）	・水争いと用水の開削（近世～）
・用水と水力発電の共存・共栄（近代）	・産業を支える水（近・現代）
・雪とともに暮らす知恵（近世～）	・スキー産業の発展と競技スキーの普及（近代～）
・記録に残る水害と雪害（近世～）	・防災・減災に向けて（近世～）
妙高市歴史文化基本構想	関連文化財群③・⑤

(第4巻) 暮らしの移り変わり（通史）	
・大地の形成と特徴的な地形（自然）	・妙高山麓の土地開発（古代～中世）
・絵図でみる江戸時代の村社会（近世）	・合併する村・学校・神社（近代～）
・戦争と暮らし（近代）	・戦後の復興（現代）
・市街地の暮らし（現代・民俗）	・市街地近郊の暮らし（現代・民俗）
・山間地の暮らし（現代・民俗）	・観光地の暮らし（現代・民俗）
・医療・福祉・子育て（現代）	・人口減少への方策（現代）
妙高市歴史文化基本構想	関連文化財群⑥・⑧